

平成27年度 第2回 教育課程編成委員会 報告書

1. 日時 : 平成28年3月3日(木) 15時00分～16時00分
2. 場所 : 日本福祉教育専門学校 高田校舎221教室
3. 出席者 : 委員長 山田 幸一 (日本福祉教育専門学校 副校長)  
委員 金川 宗正 (社会福祉法人敬心福祉会池袋敬心苑 施設長)  
委員 肥後 義道 (医療法人社団 曙光会 コンフォメディケア小規模多機能ホーム)  
委員 松山 慎司 (社会福祉法人西東京市社会福祉協議会 専門員)  
事務局 宮田 雅之 (事務部長)  
事務局 川口 朝子 (教務課)  
事務局 積田 修真 (教務課)  
書面参加: 委員 小内 仁子 (東京都言語聴覚士会 学術局部員)  
委員 渡辺 祐介 (公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会)

4. 議事

1) 人事異動に伴う事務部長の紹介(積田)

- ・宮田から挨拶をいただいた。

2) 学校経営の業績重要指標として、重点課題に対する意見交換

① 中途退学率の削減

全学をあげて退学防止に努めているが、経済的理由や親の介護など、やむを得ない理由で退学する学生もいる。また、退学理由は一人一人異なるため、マニュアルを作っても効果的な防止策とは言えない。引き続き教職員全員で手厚いフォローを実施していく。(山田)

② 教授力の向上

教授力向上において個人的な研鑽は欠かせないが、本校では「研究日設定」、「教授法研究会実施」、「研究紀要投稿」、「敬心学園学術研究会」、「教員の自己研鑽促進システム」など、組織的に取り組んでいる。

- ・専任教員の持ちコマは半期7コマが規定。研究日は各教員の専門分野における調査や研修、他校で非常勤講師として科目を担当している。(山田) 研究日は固定の曜日か?(金川) 前後期で異なる曜日に研究日を当てる教員もいるが、ほとんどが年間を通じて同じ曜日に設定している。そのため年間を通じて非常勤講師として科目を担当している。来年度から教員の評価制度が導入され、教授力向上も評価ポイントの一つになる。(山田) 各学科の専任教員と非常勤講師の割合はどの程度か。(松山) ソーシャル・ケア学科は介護福祉士と社会福祉士の両資格を目指すため、専任教員と非常勤講師の割合は半々。介護福祉学科の割合は9割程度。社会福祉学科は社会福祉主事、手話通訳、音楽療法を目指すため専門家による指導の割合が高い。専任教員と非常勤講師の割合は半々。(積田) 言語聴覚療法学科の割合は半々。(川口) 専任教員の割合が高い方が組織的に教授力向上を図っているため、効果が見えやすい。(松山) 7コマはすべて異なる科目を担当しているのか。(肥後) 1つの科目をクラス別に教える場合、2コマとカウントする。すべて異なる科目を担当しているわけではない。だいたい4科目程度持っている。(山田) 担当科目は毎年変えているのか?(金川) ほとんど変えていない。(山田) 専門性を高めるためにも変えない方が良いかもしれない。(金川)
- ・今年度の教授法研究会は3回実施した。1回目は研究紀要投稿者による発表や部署ごとの退学防止策。2回目は外部講師を招き、教育実践の経験を講義。3回目は研究紀要投稿者による発

表や留学生支援を行った。(山田)

- 研究紀要は毎年1回発行し約200部を大学や専門学校に送付している。
- 敬心学園学術研究会はグループ校で主幹校を持ち回りとし、次回の主幹校は本校。研究発表等は教員だけではなく、卒業生や施設等の職員も可能。(山田) シンポジウムの選出方法は、どのように決めているのか。(肥後) 卒業生とペアで発表を行う学校もあるため、すべて各校に依頼している。(山田) 日本福祉教育専門学校で実施する場合、教室等はどうするのか?(肥後) シンポジウムは234教室、分科会は各教室で実施する。(山田)
- 専任教員と非常勤講師が意見交換を行う講師会を毎年1回年度末に実施している。来年度に向けての講師会を3月17日(木)に実施する。(山田)
- 接骨院のマッサージ中に世間話をしていると、患者さんの本音を聞きことができ、新たな課題を発見することがある。(松山) 認知症ケアは介護福祉士だけの問題ではなく、柔道整復師や鍼灸師など、様々な専門職に必要な知識となっている。グループ校全体で総合的に教授力を高めていく必要がある。(宮田)
- 在校生の教授力だけではなく、卒業生への教授力も大切。本校では各学科において卒業教育を実施している。社会福祉士は「ソーシャルワーク実践研究会」、精神保健福祉士は「精神保健福祉研究科」、介護福祉学科は「日本介護福祉実践研究会」。言語聴覚療法学科、手話通訳、音楽療法もそれぞれ実施している。(山田)
- 授業アンケートの評価は重要であるが、授業の内容が卒業後すぐに役立つわけではない。将来、専門職として働くうえで重要になると授業を通じて説明し、自信を持って教えてほしい。(松山) 授業アンケートの結果を真摯に受け止め、改善に努めていく。(山田)
- 本校ではP e p p e r購入や大和ハウスから講師を招き介護ロボットの実演を実施し、介護ロボット教育に力を入れている。現場では介護ロボットの導入は進んでいるのか?(宮田) ほとんど進んでいない。先日も東京都の助成金申請があったが、特に対応しなかった。(金川) 学生時代にパソコンの授業があり、将来役立つことはわかっていたが実感がなかった。介護ロボットも現時点ではすぐに役立つ知識・技術ではないかもしれないが、数年後には当たり前のようになり、在学中から最先端の技術に触れる機会を積極的に導入して欲しい。(松山)

## 5. 総括 (山田)

本年度第二回目の教育課程編成委員会が開催されました。この委員会では、教員の研究力や教授法の向上について、ご検討いただきました。当校の方針としては、本文記載のとおり、教員の学内外の研修・学習会等への参加によって、自信を持っていい教育が施されるような教育環境を整え、また学生からも様々な分野の知識や技術に関心が注がれるよう、日々、研鑽を積んでいるところです。

大学教員のFD(ファカルティ・ディベロプメント)は、今や専門学校の教員にも必要になっています。教員の教育能力を向上させるための実践方法ですが、公私にわたる研修実践によって、学生の満足度向上や期待に沿う教育が求められています。今回の委員会によって、各委員の方々から貴重なご意見を頂戴できましたこと、感謝申し上げます。

以上